

NEWS LETTER

架け橋ひろば

代表コラム

～福祉と人権の未来を語る～

重度の人にも「学ぶ権利」がある — 私たちが始める新しい挑戦 —

一般社団法人 未来への架け橋 代表理事 長谷川正人

先日、ある特別支援学校の先生と1時間半ほど、進路指導や卒業後の選択肢について意見交換をする機会がありました。先生は、以前から私たちの取り組みをよく知ってくださっており、今回も率直なご意見を聞かせてくださいました。

そのなかで特に印象に残ったのは、「カレッジは“知的障害者のための大学”というコンセプトで多くの保護者が共感していたのに、なぜ今さら“生活介護”を？」という疑問でした。その背景には、これまで私たちが「学び」の意義を強く訴えてきた経緯があるからこその戸惑いもあったのだと思います。

私はこう答えました。「障害の軽い人だけでなく、重い人にも“学ぶ権利”があります。これまで手が届きにくかった重度の方の学びを、ようやく本格的に広げていきたいのです」と。

改めて振り返ると、このような疑問は、私たちの活動を長く見てこられた方々にとって、ごく自然な感情かもしれません。しかし私たちが目指している「学びの生活介護」「インクルーシブ就労の生活介護」「コミュニティ活動の生活介護」は、まさに今、多くの保護者の皆さんが抱えている「将来への漠然とした不安」や「幸せな人生を送ってほしいという願い」に、具体的に応えていくものだと思っています。

2012年、私たちが最初のカレッジを立ち上げた頃、「知的障害者が学ぶなんて無意味」「早く働かせるべきだ」という意見が大半を占めていました。しかし現在では、“カレッジ型”事業所が全国に増え、特別支援学校や通信制高校を卒業したあとのスタンダードな進路の一つとなりつつあります。

同じように、重度の知的障害者が「学ぶ」という選択肢を持つことも、数年後にはごく自然なことになっている——私はそう確信しています。

実際に海外では、重い障害があっても高等教育の場から排除されることなく、学び・働き・地域とつながる豊かな暮らしが実現されています。私たちもまた、そのような未来を目指す時期に来ているのではないのでしょうか。

“福祉とは何か”を改めて問い直し、“誰もが人として尊重され、学び、生きがいを感じられる社会”を創ること。それが今、私たちに求められている使命です。この挑戦は決して平たんな道ではありません。しかし、共に歩む仲間がいれば、きっと道は拓けます。

「未来への架け橋」は、これからも“当たり前を変える挑戦”を続けてまいります。

皆さまと共に、新しい福祉の風を巻き起こしていきましょう。

クラスタイム：バザーに向けての話し合い

2週連続で、テーマを分けてグループワークを行いました。
初めてのグループワークに少し戸惑われる様子もあり、なかなか意見を出すことができず、悩んだり、「分からない」と口に出される場面もあって、話がなかなか進まない場面もありました。しかし、徐々に慣れてこられると、たくさんの意見が飛び交うようになりました。発表者は、それぞれの意見をまとめて、みんなの前でしっかりと発表されていました(^^)

◆1週目テーマ：【制作活動】 バザーで販売できる作品

◆2週目テーマ：【販売練習】 販売の仕方を、買い物やお金



MISSION

お祭りの商品を購入しましょう。何個購入でもOK。
(1500円以内)

GOOD TRY



宇美キャンパスの活動はこちらから

余暇活動：雨の富士急ハイランド



余暇活動の内容については利用者の方々と話し合いをし、地域資源を調べて、何をしたいのか？何ができるのか？どこにどうやって行くのか？自分たちの力で計画を立てます。今回、5月17日土曜日決定した余暇活動は『富士急ハイランド』予算OK、時間OK、検索に検索を重ね当日を迎えました。当日の天気は雨模様でしたが、気持ちは晴れ晴れ…「どうしよう…」と朝困った顔をしている利用者さんがおり驚いたのですが、話を聴くと、楽しみ過ぎてドキドキが止まらなかったそうです(笑) 雨のお蔭で、並ぶ事もなく、乗りたい乗り物を思う存分楽しむ事ができ写真撮影、若者パワー全開！でした。家族旅行や学校の修学旅行とは一味も二味も違う、仲間とステキな余暇を過ごす事が出来ました。



三島キャンパスの活動はこちらから

余暇活動：室内レクリエーション！

とある昼下がり。外はあいにくの大雨。でもこの日、利用者さん達の顔には不思議と笑みがこぼれていたのです。理由はひとつ、「今日はレクだ！！」
事前に晴れの日用と雨の日用の2パターンの過ごし方を話し合っていて計画していたのです。当日どんな天気でも楽しむための準備ができていて素敵ですね◎
レクとはいえ、勝負事には全力で挑みます！時には勝敗で悔しがったり歓喜したり…でもそれも大切な経験ですよね。最後には全員笑顔を見せてくれていました。



～レクのおしながき～

- ・ハンカチ落とし
- ・絵しりとり
- ・トランプ
- ・バドミントン



成田キャンパスの
活動はこちらから

学びの現場から ～こんな授業やってます！～

三島キャンパス：授業の様子



みらいカレッジでは、社会生活力プログラムを組み込んだ自立訓練のテキストを活用し、「学びの場」の活動がスタートしました。机の配置を変えて相手の表情が見える環境を整えたり、実際に前に出て主体性を発揮する活動に挑戦したりと、戸惑いながらも一步步チャレンジを続けています。
自分の考えや想いはどうか？相手はどんな風に考えているか？ディスカッションという難しい形の見えますが、大切な『伝える』のスキルを、安心した場所だからこそ、“笑顔”でチャレンジできる。そんな三島キャンパスの授業の風景です。



成田キャンパス：ベーシックコース Tさん

T「みらいカレッジ成田キャンパスの副リーダー、Tです。」
職「副リーダー！いつの間に（笑）それはどんな仕事をするのでしょうか？」

T「うーん、編集をしたり、企画をしたりしてるかな」

職「かっこいいですね。ちなみにTさんイチオシの企画はありますか？」

T「そりゃあ1泊2日、熱海旅行です！ホテル〇〇に皆で泊まって、温泉入る予定だよ」

職「いいね！私も連れて行ってくれますか…？」

T「もちろんです！」

職「よかった～（笑）楽しみにしていますね！ではここからいくつか質問していくよ。Tさんは成田キャンパス入学前、何をしていましたか？」

T「特別支援学校に行って、作業をしたり運動をしたりしていました。」

職「色々な活動をしてきたんですね。今、みらいカレッジでの活動はどうですか？心に残っているものはありますか？」

T「楽しいです。心に残っているのは論文発表会のピアノ演奏かな。俺はプロだから！」

職「力強い言葉！積み重ねた練習の成果が出ていたよね。では最後に、一言メッセージをお願いします」

T「これからもルールと言葉遣いを意識するので皆さんよろしくをお願いします。」



「毎日楽しいです◎」



“その笑顔の先にある、やさしい居場所づくり”

宇美キャンパス 管理者 武田由美さん



今回ご紹介するのは、支援業務と管理業務の両方を担いながら、日々、未来への架け橋の現場を明るく照らしているスタッフさん。丁寧なまなざしとまっすぐな想いで、一人ひとりと向き合う姿勢に、私たちも多くの学びと勇気をもらっています。

福祉の世界に進んだきっかけは、ご自身のおばあさまの存在だったそうです。

「祖母が病気で半身不随になり、外出にためらいを感じながらも、自分でできることはやろうとする姿を見ていました。そのとき、もっと自由に、その人らしく生きられる環境を作りたいと思いました。同じように生きづらさを抱える方の“力になりたい”という気持ちが、今の仕事につながっています」

そんな原点を胸に、いま大切にしているのは「寄り添うこと」。

「利用者さんの意見や気持ちを尊重し、納得のいく形で前に進めるような関わりを心がけています。職員同士も明るく声を掛け合い、皆さんが“ここは安心できる場所だな”と思える環境づくりを大事にしています」

心に残っている出来事として、こんな温かなエピソードを語ってくれました。

「ある作業がなかなかうまくいかなかった利用者さんたちが、試行錯誤を重ねて成功した瞬間がありました。お互いに称え合いながら見せてくれた笑顔が、本当に心に残っています」

今後の夢について尋ねると、「生活介護の場を、就労につながる“未来を切り拓く場所”として発信していきたい」と語ります。

「生活介護は、“居場所づくり”だけでなく、“次のステップにつながる場所”にもなる。そうした価値をもっと伝えていきたいです」

最後に、利用者さんのご家族や地域の皆さまへ、こんなメッセージをいただきました。

「日々のご理解とご協力、本当にありがとうございます。皆さんの支えがあるからこそ、私たちも前を向いて進んでいきます。これからも一緒に、“未来への一歩”を踏み出していけたら嬉しいです」

小さな一歩が、誰かの大きな前進になる――

そんな願いを込めて、今日も現場で笑顔を届けてくれています。



交流の拠点から始まる、新しい福祉のかたち

沼津市手をつなぐ育成会会長・沼津市議会議員 尾藤正弘さん

私は沼津市で市議会議員を務める傍ら、知的障がい者親の会(育成会)の会長として活動しています。福祉に関わるようになった原点は、知的障がいのある妹の存在です。妹が沼津市の入所施設「太陽の丘」に入ることになり、家族で熱海から沼津へ引っ越しました。市議となった今では、妹を通じて感じてきた福祉の課題を、現場の声として行政へ届けことが自分の使命だと感じています。

みらいカレッジ三島キャンパスの開所式に出席したとき、まず印象的だったのは、明るく活気のある雰囲気と、想像以上に多くの学生が集まっていたことでした。特に、医療機関との連携体制が整っている点に、強い可能性を感じました。三島という立地は、新幹線駅もあり、広域から通える利便性もあります。結果として、地域を越えてチャンスを提供する場となっており、この地に開設されたことは正解だったと確信しています。

利用者たちは初々しく、希望に満ちた表情をしていました。彼らが社会の一員として地域で暮らし、働いていくためには、地域の受け皿となる環境づくりが欠かせません。ただ「就職する」ことがゴールではなく、「本人らしく長く働き続けられること」が本質です。そのためには、企業側の理解や雇用環境の整備が不可欠であり、地域社会全体がそれを支える仕組みをつくる必要があります。

三島キャンパスには、交流の拠点としての役割を強く期待しています。障がいのある若者と地域の人々、企業が自然に交わり、共に学び、育ちあえる場所となること。そんな日常の中でこそ、真のインクルーシブ社会が育まれるのだと思います。

また、制度設計にあたっては、現場で暮らし、支援に携わる人々の声に丁寧に耳を傾け、その実情を反映した施策づくりが大切です。一人ひとりの声が生かされる制度こそが、地域の豊かさと安心につながっていくのだと感じています。

最後に、利用者の皆さんへ。人生は順風満帆ではないかもしれませんが、でも、支えてくれる人は必ずいます。迷ったら、どうか周囲の大人に相談してください。働くことだけがすべてではありません。自分の進みたい道を、自分のペースで歩んでください。そして、スタッフやご家族の皆さんには、利用者の可能性を広げるため、地域へ積極的に関わってほしいと願っています。

未来への架け橋がこの地域にある意義は大きい。それは、「人と人がつながる場」がここにあるということです。声を上げ続け、未来をともに築いていきましょう。

No.1：三島キャンパス ベーシックコースHさんご家族

『特別支援学校高等部の進路指導は、
自分に合った仕事を探すことばかり…
でも僕はまだ働きたくない！』

このような現状に親子共々疑問を持っていました。2年前に長谷川代表の話を伺い、そのすべてに賛同できました。静岡市から1時間半かかりますが、毎日『すごく楽しい』というぐらい元気に通えています。たくさんの活動がありますが、その中でも『大学生や地域の皆様との交流』を特に楽しみにしている様です。様々な活動を計画するために支えてくださっている先生方のご尽力には感謝しかありません。本当にありがとうございます。そして、これからもよろしくお願いします。



成田キャンパス：管理者 篠崎 亮太



皆さんは、育児や支援において「褒めて伸ばす」が大切だというイメージはお持ちでしょうか？もちろん、褒める事は大事です。しかし、その中で「結果が出た時だけ褒める」になっていませんか？結果や行動に至るまでの過程で、子ども達や利用者様が本人なりに頑張っている事が沢山あります。

例えば、お子様がテストで20点取れたとします。そんな時に、「なんで20点しか取れないの」と怒るのではなく、「20点分勉強したんだね、偉かったね。次は30点目指して頑張ろう」と声掛けをする事が本当の意味での「褒めて伸ばす」なのではないかと思います。

とは言うものの、それらが大事だと分かっているけど、実践にうつす事は難しいものです。なぜなら、できる人ができない人の気持ちを理解するには努力が必要だからです。できない人がなぜ躓いているのか、それは考えに考え抜いてやっと見つかる答え。日常でそこまでするのは難しいですね。でも、少しでもできない気持ちの味方になって褒めてくれたら、きっと皆嬉しいだろうと私は思います。

各キャンパスおすすめベストショット

成田キャンパス



スケッチ旅
どんな絵が描けたかな？

宇美キャンパス



郊外行事
dokidoki!!どんな動物がいるかな？

三島キャンパス



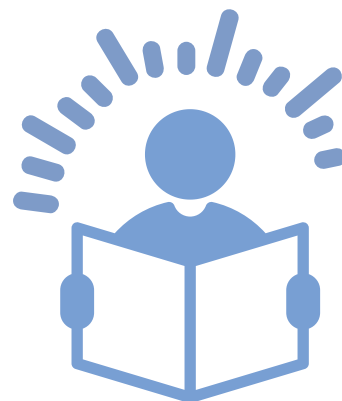
念願の余暇活動
富士急ハイランドで青春の1ページ

創刊号を読んでもらった方々から届いた嬉しいお声を紹介いたします！

すばらしい会報をありがとうございます。
拝読させていただき、早くも3つのキャンパスができていることに驚きました。今後も楽しみにしております。(篠田 哲郎様)

創刊、おめでとうございます！

いつもSNSなどで活動の様子を見ながら、「こんな場所があるって心強いなぁ」と感じていました。人が人として、自然に過ごせる場所って、実はすごく貴重なんですよ。その一步一步を、これからも応援させてください。微力ながら、賛助会員として一緒にできることをうれしく思っています。(T・M様)



法人の思いや活動にご賛同いただける方のお申込みをお待ちしています



活動内容

＞福祉啓発活動

ニュースレターやウェブサイト、SNSを活用し、活動内容や成果を広く発信します。

＞会員間のネットワーク構築

会員間の意見交換や共同プロジェクトを行います。

【年会費（1口）】

法 人	特別会員：10万円
	正 会 員：5万円
	賛助会員：1万円
個 人	特別会員：3万円
	正 会 員：1千円
	賛助会員：3千円

【お申込】
左のQRコードより
お申込みください。

5月架け橋の会ご入会者様
ご支援、心より感謝申し上げます。

ぜんち共済株式会社様/一般社団法人UBUNTU FSプロモーション様
公益財団法人つなぐいのち基金様/鎌倉はんこ月野允裕様/奈倉京子様/山中和彦様
倉光美奈子様/倉光晃子様/石山早苗様/森本創様

（順不同/掲載許可をいただいた方のみ）

代表理事・長谷川正人が、以下の講演会に登壇いたします。障害のある方の18歳以降の学びや進路に悩むご家族、福祉・教育関係の皆さまと共に、これからの可能性を考えるひとときをご一緒できれば幸いです。ご関心のある方は、下記QRコードよりぜひお気軽にお申し込みください。



◆2025年7月13日（日）愛知県半田市開催
「障がいのある青年たちとつくる『学びの場』講演会」

時 間：14:00～16:00
会 場：瀧上工業 雁宿ホール 講堂
テーマ：『学びが拓く未来』
～新たな選択肢の「みらいカレッジ」～



◆2025年7月27日（日）宮城県仙台市開催
「知的障害のある人の18歳以降の学びの場
～宮城のインクルーシブキャンパスを考える～」

時 間：13:30～15:30
会 場：のびすく泉中央 のびすくホール
テーマ：『知的障害のある人の学びと社会』
～海外の事例とみらいカレッジの挑戦～



スケジュール 6月の行事・イベント予定

June

WELCOME

みらいカレッジでは、いつでもキャンパスをご見学いただけます。

「どんな雰囲気なのかな?」「活動を見てみたいな」など、少しでもご興味をお持ちの方は、どうぞお気軽にお問い合わせのうえ、お越しくださいませ。

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
1 閉所日	2	3 地域活動(成田)	4 地域活動(宇美) オンライン 説明会	5	6	7 BBQ(三島) 余暇活動(成田)
8 閉所日	9	10 地域活動(成田)	11 みんなの アート展(宇美) 地域活動(三島) オンライン 説明会	12	13	14 閉所日 みらいカレッジ 説明会(三島)
15 閉所日	16	17 地域活動(成田)	18 地域活動(宇美) 地域活動(三島)	19	20 なりた知っ得 出前講座 ボッチャ・モル ック指導(成田)	21 閉所日
22 閉所日	23	24 室内スポーツ フェスタ(成田) 特別講座：お金 の使い方(三島)	25 地域活動(宇美) 地域活動(三島) オンライン 説明会	26	27	28 閉所日 みらいカレッジ 説明会(成田)
29 閉所日	30	地域活動 みらいカレッジは、地域とのつながりを大切にし、定期的に地域活動を行っています。 地域社会の一員としてお手伝いできることがございましたら、お気軽にご連絡ください。 みらいカレッジ説明会 長谷川代表がみらいカレッジの概要説明を行います。QRコードよりお申込みください。				

SCAN ME



読者アンケート

いつも「架け橋ひろば」をご愛読いただき、ありがとうございます。今月から読者アンケートを開始しました。QRコードから簡単にアクセスできますので、ご意見やご感想をお寄せください。

皆さまの貴重な意見をもとに、より良いニュースレター作りに努めて参ります。ご協力をよろしくお願いいたします。



編集後記

広報部より

今月号より各キャンパスの利用者さん、ご家族、地域の皆さまからの声を掲載させていただきました。編集を進める中で、皆さまの温かい言葉や利用者さんの笑顔に触れ、自然と心が和み、微笑みがこぼれました。これからも皆さまの声を大切に、より良いニュースレターをお届けしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。(宮入)

FOLLOW ME



SCAN ME!



見学申込



学びをチカラに。未来を拓く!
一般社団法人 未来への架け橋

<https://mirai-kakehashi.com/>

お問合 せ
〒151-0061
東京都渋谷区初台1-51-1-709
TEL: 03-5351-8818
E-Mail: info@miraicollege.com

